

平成 28 年度 第 3 回診断評価等基準委員会議事録

開催日時：平成 29 年 1 月 19 日（金）15：00 ～ 16：00

開催場所：神戸ポートピアホテル南館 5F 「556.558」

出席者：川上 守（担当理事）、紺野慎一（委員長）
笠井裕一、金森昌彦、竹内大作、橋爪 洋、福井 充、和田英路

欠席者：寒竹 司、関口美穂、細野 昇

報告事項（紺野委員長より）

下記のとおり JOABPEQ 使用の申請があり、川上担当理事・紺野委員長において審議した結果、学術目的の使用であることが確認されたため使用を許可した。

NSCA ジャパン 教育担当 大西史晃

新日本有限責任監査法人 本部産業医 征矢敦至

議題

1. JOABPEQ、JOACMEQ アプリの検証について

橋爪委員より、JOABPEQ アプリを使用したところ不具合はなかったとの報告があった。（JOACMEQ アプリについては未確認のため継続審議）

2. プロジェクト研究進行状況について

「腰椎変性側弯症の健康関連 QOL 低下に及ぼす X 線学的（脊柱変形）パラメータを検討する多施設横断研究」（担当：竹内委員）

今月中に European Spine Journal に投稿すべく準備中である旨、報告された。（継続）

「腰椎変性すべり症に対する手術治療法の有用性に対する JOABPEQ を用いた多施設前向き研究」（担当：寒竹委員）

今回寒竹委員が会議を欠席のため、追って紺野委員長あてにメールにて報告して頂くこととなった。（継続審議）

「術者によって頸髄症の手術成績（JOACMEQ）に差があるか」（担当：細野委員）

今回細野委員が会議を欠席のため、追って紺野委員長あてにメールにて報告して頂くこととなった。（継続審議）

3. JOABPEQ part 4、JOACMEQ part 5 の執筆状況について

「20点で有意差あり」の根拠について、JOABPEQについては笠井先生がJOSに投稿を終えたところである。JOACMEQについては和田委員が論文執筆を進めている。原稿が出来上がり次第、共著者氏名も含めて委員会メンバーで確認作業を行うこととなった。また、金森委員より「改善だけでなく悪化についても定義が必要でないか」との意見が提出され、参加者全員の賛同を得た。(継続審議) Open Accessのために経費(約20万円)が必要であるが、学会から支払えるようにJSSR理事会に提案することとなった(川上担当理事)

4. JOABPEQ、JOACMEQ 偏差得点の開発の進捗状況について

福井委員より、引き続き検討中であり次回の委員会で報告する旨、説明された。(継続審議)

5. 日本整形外科学会へのプロモーションについて

JOA 診断評価委員会の再開につき、紺野委員長から JOA 理事長に提案することとなった。(継続審議)

6. プロジェクト研究へのインセンティブ

川上担当理事が1月20日のJSSR理事会で再提案することとなった。(継続審議)

7. プロジェクト研究(JOAも含めて)のデータを蓄積して再利用する件について

本案件は平成28年度第1回の委員会で提案されたものである。当委員会としては第1回委員会において全員一致で賛同したところである。過去に実施されたプロジェクト研究のデータを蓄積して再利用するためには、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」(平成27年4月1日施行、モニタリング・監査に関する規定については同年10月1日施行)に準拠する必要がある。この点につき、紺野委員長がJOA倫理委員会に問い合わせることとなった。そのために過去のプロジェクト研究で収集したデータの内容、具体的な再利用方法(PICO/PECOを含みリサーチクエスション)について検討する必要がある(アイデアのある委員は紺野委員長に連絡する)という認識で一致した。(継続審議)

8. 新しい診断・評価ツールの開発と新規プロジェクト研究

紺野委員長より、痛みの性質が侵害受容性か神経障害性かを2項目の簡単な質問で判定する診断サポートツールを福島県立医大で開発し、現在投稿中である。約150例で実施したstudyなので、大規模サンプルでvalidationを行いたい(研究資金を提出しても良いという製薬会社もある)と考えている。(継続審議)

紺野委員長より、厚労省班研究(紺野班)で開発した、QOLに着目した難治性疼痛

の客観的評価ツールについても Validation を行いたいと考えている。(継続審議)
川上担当理事より、プロジェクト委員会において「頸椎由来頸肩腕症状に対する薬物療法」に関する多施設研究の案件が検討されている。当委員会もメンバーとして参画し、紺野委員長らが開発した侵害受容性/神経障害性疼痛診断サポートツールを評価項目に加えてもらうように働きかけることとなった(継続審議)
和田委員より、中国本土の施設から JOACMEQ を用いて日本との共同研究を行いたいという要望があった旨報告された。まずは JOACMEQ を中国で使用するにあたり、健康関連 QOL 質問票の Translation については定められた手順があり、イラン版とタイ版が報告されているので、それらを参考にしよう先方に伝えて頂くこととなった。

- Azimi P, Shahzadi S, Montazeri A. The Japanese Orthopedic Association Back Pain Evaluation Questionnaire (JOABPEQ) for low back disorders: a validation study from Iran. J Orthop Sci. 2012 Sep;17(5):521-5.
- Poosiripinyo T, Paholpak P, Jirattanaphochai K, Kosuwon W, Sirichativapee W, Wisanuyotin T, Laupattarakasem P, Sukhonthamarn K, Jeeravipoolvarn P, Sakakibara T, Kasai Y. The Japanese Orthopedic Association Back Pain Evaluation Questionnaire (JOABPEQ): A validation of the reliability of the Thai version. J Orthop Sci. 2017 Jan;22(1):34-37.
- Witayakom W, Paholpak P, Jirattanaphochai K, Kosuwon W, Sirichativapee W, Wisanuyotin T, Laupattarakasem P, Sukhonthamarn K, Jeeravipoolvarn P, Sakakibara T, Kasai Y. Validation of the reliability of the Thai version of the Japanese Orthopaedic Association Cervical Myelopathy Evaluation Questionnaire (JOACMEQ). J Orthop Sci. 2016 Mar;21(2):124-7.

9. その他

次回開催予定について

第46回JSSR学術集会(札幌、4月13-15日)期間中に開催する方向で調整することとなった。